

まえがき	深澤広明	2
------	------	---

## 第 I 部 学習指導要領のあり方を問い直す

1 学習指導要領の原理的考察と今次改訂の特質	安彦忠彦	10
1 学習指導要領はなぜつくられたのか		10
2 学習指導要領の基本的性格の歴史的推移—3つの視点から—		12
3 今次改訂の特質—その意図と結果—		18
2 グローバル化の中の次期学習指導要領の特質	中野和光	23
1 はじめに		23
2 OECDの政策との関係		24
3 これまでの教育改革との関連		25
4 脱コンピテンシーの動き		26
5 コンピテンシー志向の教育をどのようにとらえるか		29
6 おわりに		30
3 資質・能力ベースのカリキュラム改革と教科指導の課題 —教科の本質を追求する授業のあり方—	石井英真	35
1 はじめに		35
2 資質・能力ベースのカリキュラム改革		36
3 資質・能力とALが提起する授業改革の方向性		38
4 日本の教師たちが追究してきた創造的な一斉授業の発展的継承		41
4 「資質・能力」の形成と「教科の本質」：国語	松崎正治	49
1 学習指導要領改定に向けてのこれまでの動向		49
2 問題の設定		51
3 〈認識・表現の力を育てる系統指導（案）〉の検討		52
4 西郷竹彦案の背景にある言語理論		55
5 「コンピテンシー」重視と「教科の本質」論との両立は可能か		57

5 「資質・能力」の育成と「教科の本質」：社会 池野範男 61

---

- 1 本稿における問題と構成 61
- 2 問題とその構造 61
- 3 従来の見解とその課題 63
- 4 教科「社会」の問題：原理的パースペクティブ 65
- 5 教科「社会」における学習原理 67
- 6 結 論 71

6 「数学を教える」のか「数学を通して教える」のか  
—「思考力」や「態度」は教育目的たりうるか— 大田邦郎 73

---

- 1 はじめに 73
- 2 新学習指導要領の「目標」 74
- 3 新学習指導要領の「内容」 75
- 4 「学力観」は転換したか 76
- 5 数学教育の目的 77
- 6 数学的活動 79
- 7 「スパイラルによる教育課程」 80
- 8 学習指導要領と教科書 82
- 9 おわりに 83

7 学習指導要領・理科を支える柱  
—知識・技能の習得と熟達— 大野栄三 84

---

- 1 はじめに 84
- 2 次期学習指導要領・理科の構造 85
- 3 2本目の柱「思考力・判断力・表現力の育成」の解体 87
- 4 新しい柱「知識・技能の熟達」 88
- 5 堅牢さのない柱「態度」 90
- 6 教科「理科」の本質と科学的な見方や考え方 92
- 7 おわりに 93

## 第Ⅱ部 教育のスタンダード化と教育方法学の課題

### 1 教育の「定型化」に挑む教育実践研究の歩み

—明治期・大正期・昭和期の授業研究に焦点化して— 北田佳子 98

---

- 1 問題の所在 98
- 2 明治期における「定型化」の進行 99
- 3 大正期における「脱定型化」の試行 101
- 4 昭和戦後期における「再定型化」に対する挑戦 105
- 5 おわりに 108

### 2 授業のスタンダード化と教育実践の課題 福田敦志 112

---

- 1 はじめに 112
- 2 教育における「包摂」のしくみの再構築 113
- 3 授業のスタンダード化のなかで生み出される世界 117
- 4 対話が生み出される授業づくりの視点と課題 121

### 3 教育のスタンダード化と教師教育の課題 姫野完治 126

---

- 1 スタンダードに基づく教育改革の拡大 126
- 2 教育のスタンダード化と教師教育 128
- 3 「教師の学び」の視点からスタンダードを考える 134
- 4 今後の課題 135

## 第Ⅲ部 教育方法学の研究動向

### 1 「エビデンスに基づく教育」に関する研究の動向 藤江康彦 140

- 1 「エビデンスに基づく」教育とは 140
- 2 「エビデンス」をめぐる議論 141
- 3 教師の専門性に関する議論 143
- 4 教育研究のあり方についての議論 145

### 2 多様な文化的背景の子どもたちに対する教育に関する 研究の動向と今後の課題 金井香里 151

- 1 はじめに 151
- 2 ニューカマーの子どもに対する教育に関する研究の動向 153
- 3 ニューカマーの子どもに対する授業の方法に関する研究の動向 156
- 4 米国における文化的マイノリティの子どもたちへの教育をめぐる議論 157
- 5 ニューカマーの子どもに対する教育の方法をめぐる今後の課題 159